

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677100101
法人名	社会福祉法人 以和貴会
事業所名	グループホーム けやき
訪問調査日	平成 20 年 5 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 7 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

【取り組みの事実】

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

【取り組みを期待したい項目】

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

【取り組みを期待したい内容】

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

作成日 平成20年 5月31日

1. 評価結果概要表

[評価実施概要]

事業所番号	4677100101		
法人名	社会福祉法人 以和貴会		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地 (電話番号)	鹿児島県鹿屋市串良町細山田5902番地3 (電 話) 0994-62-4061		

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年5月26日	評価確定日	平成20年7月7日

[情報提供票より] 20年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 9 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 9人, 非常勤	人, 常勤換算 8.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋平屋	
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 4,500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要 (4月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.6 歳	最低 73 歳	最高 100 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かのや東病院・宮地胃腸外科・桜ヶ丘病院・池田歯科医院
---------	----------------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

市街地を抜けて行くと広々としたキャベツ畑が続く、目の前には競争馬を育てている牧場があり自然に囲まれた所に、「グループホームけやき」がある。隣の敷地には運営母体である社会福祉法人の施設がある。開設当初から地域との交流を積極的に進めてきており、地元の学生の職場体験を受け入れたり、地域婦人部の踊りのボランティアに来てもらったり、また、施設が主催する夏祭りには地域の方々を招待したりしている。小組合に参加し地域の方々とのふれあいを大切にしてるのが伺えるホームである。また、介護サービスの質の向上の為に利用者の安全・安心の確保の為に、夜間勤務体制を充実させ夜勤1名、当直1名の2名体制を取り入れ職員も安心してケアできるグループホームである。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	1. 評価の意義の理解と活用は、自己評価票を職員に渡し処遇会議等で話し合っている。2. 運営に関する家族等の意見の反映は、家族が面会時に話しかけやすいような雰囲気を作る努力をしている。3. 職員の異動による影響への配慮は、引継ぎ期間を1ヶ月取っている。4. 災害対策は、災害時の対応マニュアル等の掲示も行っていた。改善シートを使って話し合いを行ったが、話し合いが1回だけで終わっているため、継続した取り組みを期待します。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	早い時期から職員全員に自己評価票を渡し、朝礼時や処遇会議等でみんなで話し合いを行い作り上げられている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回行われており、参加者は利用者代表、家族代表、市職員、民生委員、消防団長である。討議内容については、事業所の活動報告、利用者の介護状況、認知症の勉強会、外部評価についての報告などをおこなっている。参加者を固定せずに、色々な立場の方に参加してもらえるよう、声かけなど工夫されることを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見・苦情についての対応は、事業所の担当者と第三者委員・行政窓口担当者がおりいつでも対応できるようになっている。また、職員は家族が面会に来られた時に家族が話しやすい雰囲気作りを心がけており、言葉遣いや笑顔で接するなど努力を重ねているところである。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人として小組合と振興会に加入しており、地域とのふれあいを積極的に進めている。年間10回近くの職場体験を受け入れており、その学校から運動会や文化祭に招待されたりしている。また、散歩している時でも近所のかたに声かけしながら交流し楽しんで生活している。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時に職員で話し合い作られた理念であるが、当初から地域密着を意識され、「地域との交流も盛んにして出来るだけ多くの人々とのふれあいの場がもてるように務めます」という理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングや処遇会議などで管理者と職員で意識づけをしている。散歩の時には近隣住民に声をかけ、ふれあえるように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として小組合と振興会に加入している。小学生、中学生、高校生の職場体験を受け入れ、小学校の運動会や高校の文化祭に招待されたり、地域の婦人部の踊りのボランティアに来てもらったりと交流する機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点については、職員会議で話し合い、災害時の対応マニュアルの掲示のように、すぐに行えることについては改善しているが、継続中のものもある。今回の自己評価については、早い時期から自己評価表を職員に渡し、朝礼や処遇会議等で話し合いながら取り組んできている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行われており、参加者は入居者代表、家族代表、市職員、民生委員、市消防団長である。討議内容については、事業所の活動内容、行事予定、介護状況等についての報告、認知症についての勉強会、などである。意見交換時にも、特に意見や要望などあがることが、少ない。	○	運営推進会議は幅広い立場の人が参加する会議とし、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得る機会にすることが大切なので、出席者を固定することなく、色々な立場の方に声かけし出席してもらえるように、意見を出して頂けるように工夫されることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらっている他、ホーム便りを直接届けたり、書類の手続きや相談に行ったりしながら、連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は家族が何を知りたいかを認識しており、「ホーム便り」に担当者が近況報告を書いて、写真と一緒に個別に送っている。金銭管理については、通帳を通して行っていて、通帳をコピーして領収書と一緒に家族に渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		○	家族会も年1回行われており、家族の率直な意見を引き出すための工夫をされることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職に伴う利用者のダメージについては、管理者と職員は認識しており、引継ぎ期間は1ヶ月取っている。夜勤についても責任者が指導し、1ヶ月経ってから行うように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大隅地区の研修や外部研修については、職員が交代で参加できるようにしている。2ヶ月に1回は接遇会議や内部研修を行っており、研修に参加した職員は処遇会議にて必ず報告し全員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム連絡協議会に加入して、研修会では事例検討会や意見交換を行っている。	○	以前は他のグループホームへの見学会などがあったが、今はしていない。管理者だけでなく職員も他のグループホームとの交流をすることで、学びあいサービスの向上につながることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が自宅に訪問し利用者や家族と話し合い、事業所に見学に来てから入居してもらっている。入居後不安になった時には、本人のペースを大事にし家族の協力を得て馴染むようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、日常生活の中で洗濯物をたたんだり、料理の下ごしらえなどできることをしている。職員は、利用者から干し大根の作り方や、昔の歌を覚えてもらったり、お互い支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からそれぞれの思いを汲み取り支援している。会話が困難な方については、入居前に利用者と家族から、楽しみ事、本人や家族の希望などを聞いて、生活の支援に生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別のケース記録に本人の希望や訴えを書いて、職員は連絡ノートに気づきを記録し、ケアプランに活かしている。処遇会議での意見やスタッフの意見が取り入れられるように、毎月モニタリングをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、長期で6ヶ月、短期で3ヶ月に1度見直しを行っている。容態が急変した場合にはその都度おこなっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の施設の看護師と連携し、毎日バイタルチェックをしたり、緊急時の対応も行っている。家族からの要望があれば病院受診の送迎も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの病院がそのままかかりつけ医となっている。受診後は職員と家族は受診内容についての情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急時対応のマニュアルは作られている。終末期は病院でという家族の要望が強いため、ホームでの看取りは今のところ考えていない。医療機関での治療を優先に行うということを確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入所時や処遇会議でプライバシーについての勉強会をしている。トイレのドアがいつも開けたままになっている。	○	シルバーカーを使って生活している利用者が多いため、トイレにそのまま入っていけるように、ドアを開けたままにしているので、ドアを閉めるための何らかの工夫を管理者と職員が話し合っていくことを希望します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望とペースにあわせ支援している。朝寝坊する人がいたり、レクリエーションが嫌いな人には無理に勧めることはせずに好きなことをしてもらったり、入浴も希望すれば入ることができる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ができること、下ごしらえなどを職員と一緒にし、同じテーブルを囲んで話をしながら食事を楽しんでいる。2ヶ月に1回は外食を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回ということで決めているが、その日の体調にもよるので、入れなかった時は翌日に入るようになっている。拒否する方の声かけは、着替えだけでもいいながら浴室に連れて行ったりするなど、工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	プランターに花を植えたり、馴染みの美容室に行ったり、買い物やドライブなど楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お弁当を持って花見にでかけたり、ばら園に行ったり、天気の良い日はシルバーカーや車イスを使い散歩に出かけている。ウッドデッキに出てお茶を楽しんだりもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある方の行動は把握しており、職員も一緒に散歩に行ったりしている。玄関にはセンサーがついているが、もし外に出てしまっても、地域の方に連絡してもらえるように連携は出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の方に来て頂き、同法人の施設と合同で夜間想定避難訓練をしてる。地震を想定した避難訓練は検討中である。備品の準備はできている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のカロリー摂取量は、1400kcal水分は食事外を1000mlとし、食事、水分とも摂取量は記録している。献立は、同法人施設の栄養士が利用者の好みを参考にしながら立てている。刻み食の人はいないが、硬い物の時には刻みにする場合もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は吹き抜けになっており、青い空に雲が浮かんでいる様子をイメージした模様になっている。対面式のキッチンから、お気に入りのソファの場所でくつろぐ利用者の様子を、伺うことができる。壁には、笑顔あふれる利用者の写真が飾られ、明るく落ち着いた雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとタンスは備え付けとなっているが、使い慣れた椅子や小物、家族の写真などが飾られ、居心地よく過ごせるようにしている。		